

重点目標と方策に対する取組状況の評価

1 両部門共通

ア 個々の能力や可能性を追求する学校			
・生徒が希望する進路選択の100%実現		A	100%達成した。
・併置校のメリットを生かした、両部門の教育内容を充実・発展させる取組みの開発実施	前期から	B	年間7つの取組を展開。今後発展させる。
・肢体不自由教育部門の健康の保持に関するノウハウを生かした 食物アレルギー対策・感染症予防対策及び、児童・生徒の緊急時 対応等に関する危機管理体制の整備	4月から	B	マニュアル等の見直し、改善を図る。
・就業技術科生徒を活用した全校の清潔・安全で快適な学習環境保持と感染症予防の実現	5月から	B	10月に再確認し、改善した。
・肢体不自由教育部門児童・生徒のカフェ利用による両部門児童・生徒の相互学習の実現	6月から	B	2回実施した。
・就業技術科の情報発信のノウハウを生かした肢体不自由教育部門の情報発信の充実	5月から	B	パンフレットの外注やホームページ等の充実が課題である。
イ 自ら積極的に学習する態度を身に付け、社会参加できる学校			
・オリンピック・パラリンピック教育の推進 各部門・各学部で、特定の教科に偏らず教育活動全体で展開する	年間 35 時間 程度	B	各教科で年間計画に沿って実施した。パラリンピックの選手を招いた授業を3回実施した(水泳・パラアイスホッケー・新体操)。
・アクティブプラン to 2020 に基づく指導の徹底。体力測定 のフィードバックを行い、体育科が推進する	前期中	B	就業技術科を中心に実施。1年生のハンドボール投げ目標2mアップを達成した。
ウ 人権を尊重し、健康で安全・安心に過ごせる学校			
・児童・生徒のロールモデルとなるための教職員行動規範の策定と周知徹底	5月中	B	10月に教職員行動指針を作成し確認した。
・専門家を活用して、本校の教育活動において、児童・生徒の人権が守られているかを点検する人権教育推進会議の設置	年間2回	B	実施した。議論の共有が課題である。
・クリーンデスク等の各種方策を講じて、個人情報の紛失を防止する クリーンデスク毎週金曜日、長期休業期間の点検 S1文書等の貸出ルールの策定とその運用	年間2回 5月中	B	トレイを用意し整備した。徹底が課題である。
エ それぞれの使命と役割を果たす学校			

・児童・生徒の事故「ゼロ」の実現		B	数件に留めた。
・サービス事故「ゼロ」の実現		A	実現した。
・ホームページの計画的・組織的更新を実現するための更新計画の策定と実施	更新 年 80 回以上	A	計画的に 160 回更新した。
・主幹教諭、主任教諭を活用した学校組織の構築	4 月から	C	課題を整理し、改善を図る。
・保護者や関係機関と連携した学校評価の実施	6 月から	A	10 月に実施した。
・都民・地域に開かれた学校を目指した第二体育館の施設開放実施	6 月から	B	3 団体が年間 21 回、延べ 148 名が利用した。

2 知的障害教育部門 就業技術科

生徒、一人一人の可能性を追求し最大限に伸ばす学校

ア 個々の能力や可能性を追求する学校			
・保護者及び関係機関等と共通理解を深めた個別指導計画の作成	4 月から	B	個別面談で共有した。
・企業の障害者雇用経験者等との就労に向けた戦略会議の開催	7・10・2月	B	戦略的な実施が課題である。
・高等部卒業後の進路実現に向けた現場実習先等の検討会の実施	年 12 回以上	A	進路及び職業に関する専門教科との連携方法を改善した。学年への早期周知を実施した。
・社会的自立に向けた教科指導の徹底を図るための教科会の実施	年 5 回以上	B	免許所有者毎の実施とし改善したが、充実が課題である。
・本校版生活指導検定を活用し、自ら決まりを遵守する力を育てる	年 7 回以上	B	1 年 3 回、2 年 2 回、3 年が 1 回実施した。教職員の共通理解と徹底が課題である。
・部活動及び委員会活動への加入	100%	A	100%加入した。
イ 自ら積極的に学習する態度を身に付け、社会参加できる学校			
・教科「情報」の始業前・放課後・土曜日・長期休業中の補習・講習の実施	年 24 回以上	A	情報で 150 回実施の他、ビルメンテナンスコースでも 30 回実施した。
・委員会活動を定期的に確保し、地域に貢献できる内容や場を提供することに、日常的に取り組む	年 20 回以上	B	各委員会月 1～2 回の設定日の他、日常的に活動した。全体での貢献活動が課題である。
・障害者スポーツ大会への積極的な参加	年 20 試合以上	A	運動部は延べ 25 回の大会に参加。他の就業技術科との練習試合も 27 回実施した。

・全国障害者スポーツ大会へ向けた選手の育成	5名以上	B	2名が全国大会に出場した。
・東京都特別支援学校総合文化祭への積極的な参加	100%	A	表現活動部・音楽部・美術部・囲碁将棋オセロ部が参加した。
ウ 人権を尊重し、健康で安全・安心に過ごせる学校			
・教室、廊下等の環境整備の定期点検	月1回以上	C	バックヤードの整備が課題である。
・人権尊重に配慮した入学者選考に向けた研修会の実施	年2回以上	A	適正に実施した。
・教職員自ら一般企業体験研修、接遇研修等への参加	一人1回以上	B	9割の教員が実施した。

生徒が「日々前進」し、未来を開くための力を付ける学校

ア 自らの夢や願いに向けて常にチャレンジする学校			
・地域に根差したカフェのオープン	5月末	A	5月末よりカフェ営業及びランチ営業を月数回ずつ実施した。
・フォークリフト特別教育取得	ロジスティクスコース 3学年全員	B	19名中16名が取得見込みである。
・漢字・英語・家庭科検定等での資格取得の充実	各1回以上	A	漢検は年3回、英検は2回、家庭科検定は1回実施した。
・ビルクリーニング技能検定3級取得	希望者全員	A	12名受検した。
・日本語ワープロ検定試験（Word）・情報処理技能検定試験（Excel）での資格取得者の増加	各20名以上	A	12月までにワープロ検定62名、情報処理技能検定33名が1～4級を取得した。
・ワークサンプルを活用した生徒の実態把握と企業就労に向けた指導プログラムの活用	1学年全員	B	1年時に全員実施した。活用の充実が課題である。
・ICTを活用した教材・教具の開発による授業の充実	各教科1回以上	A	全教科で実施した。
・地域の高等学校等との文化的・体育的交流の充実	年3回以上	B	表現活動部での交流を高等学校と1回実施した。高齢者施設との交流は4回実施。運動部が中学校と1回、都立特別支援学校及と10回都選抜チームと6回の合同練習を実施した。

イ 応募者数128名(1.6倍)以上を達成し、適性で円滑な入学選考を実施する学校			
・学校公開(年2回)と学科説明会(年11回)、中学生体験(年2回)、教員向け(年2回)、塾向け(年1回)実施	1000名以上	A	延べ約1500名が来校した。
・学校案内パンフレット、ポスターを中学校の担当者へ手渡しで配布	120校以上	A	約220校に訪問した。
・中学校単位での授業見学及び体験会の実施	5校以上	A	19校に実施した。
・区教委主催の研修会等に参加し、積極的な広報活動の展開	3回以上	A	6回実施した。
ウ それぞれが認め合い「一緒に育つ」インクルーシブな学校			
・障害者スポーツを活用した高等学校等との交流	6月から	C	バレーボール部が中学校と練習試合を2回実施した。高校との交流は2回実施した。
・保護者を対象とした進路等に対する研修の実施	年6回以上	B	勉強会を4回、保護者会における講話を3回実施した。
・知的障害教育と肢体不自由教育の(合同授業等)実施に向けた準備	5月から	B	職業に関する専門教科で7回、音楽で3回実施、保健体育で1回実施した。

生徒が「毎日真心」の気持ちや思いやりの心を育てる学校

ア 様々な人たちとともに創るみんなの学校			
・オープンフェスタや葛飾区水元総合スポーツセンターでの「第18回全国中学生創造ものづくり教育フェア」「ふれあいフェスタ」におけるフードサービスコース等のサービス提供	年3回以上	A	年間7回実施した。
・葛飾区花いっぱいのみちづくりプロジェクトへの積極的な参加	年5回以上	B	月1回以上活動した。
・特別支援教育心理士との連絡会の実施	5月から	A	年間280ケースの相談と合わせ、42回の連絡会を実施した。
イ 地域に開かれ、地域と連携した学校			
・都内のハローワークと協働した障害者雇用に関する理解啓発	4月から	A	年9回の見学会実施した。
・企業が求める職業教育の充実	4月から	B	企業のA B評価93%、A評価は36%であった。
・葛飾区教育委員会と連携した研修会等の協働	5月から	B	葛飾区特別支援教育改善作業部会他、6回実施した。
・近隣の施設、学校、大学、町会等との連携及び協力体制の構築	4月から	A	葛飾区体育施設、近隣の学校、自治会等と良好な関係を構築した。
ウ それぞれの使命と役割を果たす学校			
・生徒及び保護者の各教科等の授業の満足度向上	90%以上	B	生徒が88%、保護者が93%の満足度であった。
・進路変更以外の退学者ゼロ	4月から	B	進路変更者は4名

			であった。
--	--	--	-------

3 肢体不自由教育部門

児童・生徒、一人一人の可能性を追求し最大限に伸ばす学校

ア 個々の能力や可能性を追求する学校			
・鹿本学園等、前籍校との連携を図り、教育内容と個別の支援方法の継続性を保つ	4月から	B	言葉や数等、認知に関わる学習について、指導を継続した。
・保護者及び関係機関とアセスメントを共有した個別指導計画の作成	4月から	A	5月、9月、2月に個別面談を実施し、共通理解を図った。
・高等部卒業後の進路実現に向けた検討会の実施	年3回以上	C	学年会を活用して検討した。
・PT・OT・ST等の自立活動指導員と連携した教員の専門性向上研修等の開発	12月まで	B	夏季休業中に2回実施した。
・言葉・数・量の基礎的な概念形成や、認知・コミュニケーション学習の充実	4月から	B	年間を通して各学習グループにおいて個別学習の時間を確保し実施した。
・言語環境の充実に向けた図書室の蔵書整備とタブレットを活用したデジタル図書等の整備	7月以降	C	蔵書管理については、就業技術科と連携して進めたが、蔵書整備は未完了である。
・ICT機器等、教材教具の活用を促進するための、学習効果を測定できる研修の実施	年3回以上	B	視線入力装置や移動装置の活用を始めた。
・ICT機器等、教材教具の活用を促進するための活用プログラムの作成	各学部1つ以上12月まで	C	実践できたが、プログラムの開発は今後の課題である。
・全教員の研究授業の実施（年次研対象を除く 年間1回） ※ICT・IT(支援技術)活用、自立活動指導員活用、サブティチャーの効果的活用、学習量を増やす工夫に重点	1月まで	A	全教員の研究授業を実施できた。
イ 自ら積極的に学習する態度を身に付け、社会参加できる学校			
・他校の優れた指導実践を知るための授業参観の実施	年3回以上	B	3回実施した（中学校・他県特別支援学校等）。次年度は計画的に実施できるようにする。
・障害者スポーツ大会及びハンドサッカー大会等への参加	年2回以上	A	陸上大会とハンドサッカー大会に参加した。
・高等部2年生で卒業後に福祉施設利用を希望する生徒の実習実施	100%	A	在籍者5名全員実施した。
・就業技術科の生活指導検定等のノウハウ及び外部機関の就労アセスメント評価基準等を活用した指導プログラムの開発と試行	12月まで	B	進路指導部を中心として、現在開発中である。

ウ 人権を尊重し、健康で安全・安心に過ごせる学校			
・教室、廊下等の環境整備状況の定期点検	毎週金曜日	B	安全点検票を活用し点検した。
・多様なニーズに対応できる教育環境設備の研究	年3回以上	B	3月にスノーズレン室等、部門間での有効活用を試行した。
・児童・生徒の健康を守る教育環境整備マニュアルの作成と活用	7月まで	A	前期中に教室スタンダードを作成し、各教室に配備した。
・自立活動指導員を活用した、日常生活における姿勢や呼吸等の健康の保持に関する、指導・支援状況の確認と改善（自立活動の指導の充実）	12月までに一人1回以上	B	通学生については全員個別アセスメントを実施した。

児童・生徒が「日々前進」し、未来を開くための力を付ける学校

ア 自らの夢や願いに向けて常にチャレンジする学校			
・自立活動指導員、大学と連携した障害の重い児童・生徒の認知とコミュニケーション能力を高める指導方法及びICT活用等による教材・教具の開発	各学部・教育課程毎に1つ以上	C	タブレット端末や視線入力装置を活用した。開発は今後の課題である。
・訪問学級のICT活用学習プログラムの開発	5月から	B	タブレット端末の活用を進めたが、アプリの研究やプログラム開発は次年度の課題として継続する。
・芸術イベント等への参加準備（東京都特別支援学校総合文化祭、障害者アートプロジェクト等への参加）	前期から	A	東京都特別支援学校総合文化祭、公立学校美術展等に作品を出展した。

イ 自立と社会参加が多様に実現できる学校			
・障害の重い児童・生徒の健康保持増進・安全確保に向けた、危機管理の方策構築（校内の危機管理システムの構築・各種緊急対応訓練の計画実施・感染症発症時の放課後等デイサービス事業所等との情報共有システムの構築）	10月まで	B	感染症対策についての啓発掲示を作成した。緊急時対応のマニュアルも各教室に配備した。
・パラリンピアン等のアスリートを招へいした障害者スポーツイベントの実施	年1回以上	A	5月、6月、2月の3回実施した。
・就労・進学を希望する児童・生徒への公共交通機関利用による通学訓練のしくみの準備	12月まで	A	一人通学検討会議や指導計画類の整備を行った。

ウ それぞれが認め合い「一緒に育つ」インクルーシブな学校			
・障害者スポーツを活用した交流及び共同学習・学校間交流等の実施・研究	6月から	B	5月から2月にかけて部活動をとおして学校間交流を実施した。
・保護者を対象とした研修会・説明会等の実施	年3回以上	B	進路指導部が中心となり、進路や生活に関する学習会を3回実施した。

・肢体不自由教育部門と就業技術科が連携した授業等の実施に向けた準備	5月から	A	9月～10月にかけて、中学部と高等部で学習グループ各2回実施した。
・地域指定校における直接交流の実施	6月から	A	交流9件のうち、直接交流は6件実施した。

児童・生徒が「毎日真心」の気持ちや思いやりの心を育てる学校

ア 様々な人たちとともに創るみんなの学校			
・外部機関・地域の人材活用による学習の推進(近隣図書館との連携による読書活動含)	年2回以上	B	区立図書館の協力を得て各学部1回ずつ実施した。
・放課後等デイサービス事業所等との連絡会の設置	6月以降	A	年2回実施した。
・学校薬剤師を活用した教室環境保持・与薬等に関する研修の実施	年1回以上	A	夏季休業中に1回実施した。
・自立活動指導員による研修の実施	年3回以上	B	2回実施した。
イ 地域に開かれ、地域と連携した学校			
・葛飾区と連携した、福祉制度(サービス)学習会の実施	年1回以上	A	1回実施した。
・地域防災協定締結に向けた準備	5月から	C	次年度に向け準備を継続する。
・学校説明会、展覧会への地域住民等の参加促進	100名以上	A	6月・9月の学校公開及び展覧会の来校者延べ143名であった。
ウ それぞれの使命と役割を果たす学校			
・肢体不自由教育部門開設に伴う、教材・教具・教室環境整備に向けた施設管理計画策定と予算執行計画の策定	4月から	B	開設後も必要に応じて、予算を計画し執行した。
・要支援ケースへの適切で継続的な支援を可能にする、支援会議等のシステムの構築と実施	5月から	B	コーディネーターを中心とした支援会議を適宜実施した。
・保護者や関係機関と連携した学校評価の実施	6月から	A	児童・生徒対象にも評価を行った。